

わたしたち、こうして 使っています

障害当事者に聞く
使える・使いたいアプリ・サービス

2017年10月5日



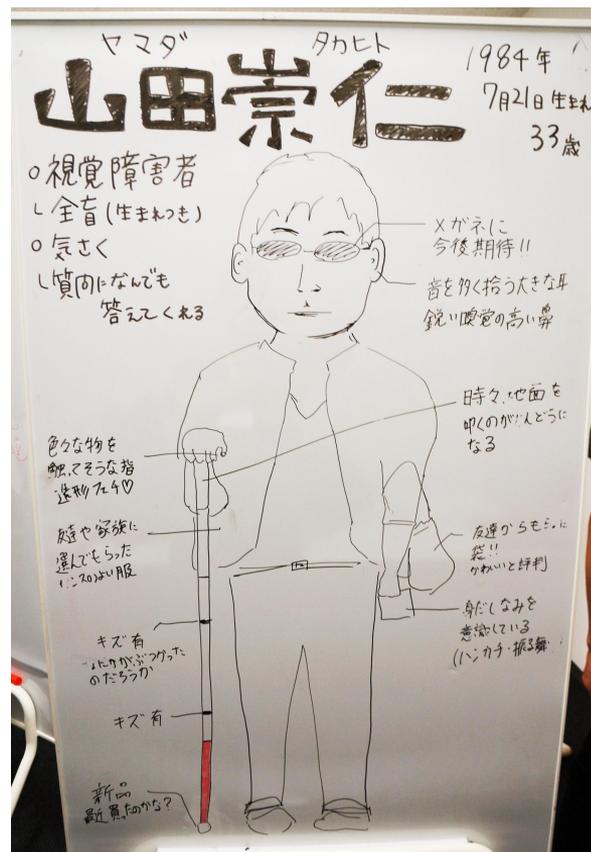
伊敷 政英(いしき まさひで)

- 1977年生まれ。
- ITコンサルティング会社勤務を経て2010年よりフリーのアクセシビリティコンサルタントとして活動。
- 2011年よりウェブアクセシビリティ基盤委員会WG2委員、2015年よりWG2主査。
- 先天性のロービジョン。



山田 嵩仁(やまだ たかひと)

- 1984年生まれ。
- 2009年に富士ゼロックスのグループ会社に入社。
- 2014年より富士ゼロックス株式会社に勤務。
ソフトウェア製品のスクリーンリーダーによる
アクセシビリティ点検などを担当。
- 2017年よりWAIC WG2委員。
- 先天性の全盲(両目とも視力0)。



伊原 力也(いはら りきや)



- free株式会社
 - インフォメーションアーキテクト / UXデザイナー
- ウェブアクセシビリティ関連の書籍執筆、監訳
- HCD-Net 評議委員 / 認定人間中心設計専門家
- IAUD 移動空間研究プロジェクト 副主査

本日の流れ

- 伊敷さんの場合(デモ)
 - 仕事編～パソコンと、業務で使うもの
 - 日常編～スマートフォンと、生活で使うもの
- 山田さんの場合(デモ)
 - 仕事編～パソコンと、業務で使うもの
 - 日常編～スマートフォンと、生活で使うもの
- まとめ

デモ

まとめ

周りの人と同じものを使っている

- アクセシビリティで実際に生活が変わる
- アクセシブルだから使う・アクセシブルでないから使わない、
という判断基準だけではない
- 多様な利用環境、利用方法を正確に把握し、要件として落とし込む

多様な利用環境 / 方法を阻害しないデザインや実装

- 何かと何かを重ねるときの見やすさを確保する(特にアプリ)
- コントロールにフォーカスを当てて実行できる
→「標準のHTML要素やアプリの標準コンポーネントを適切に使う」
- リンクやボタンや何かタップ可能なコントロールに当たった時に、それが何をするものなのかが読み上げられる
→「読み上げ可能なラベルを付ける、代替テキストをつける」

ありがとうございました